

## 番組審議会（2020 年度後期）

### ■開催日時

2021 年 2 月 25 日

### ■開催場所

オンラインにて実施

### ■出席委員

関沢英彦委員長、野田慶人委員、天城鞆彦委員、瀬戸純一委員、中浩正委員、米村恵子委員、酒井順子委員

### ■審議対象番組

「東京レガシー TOKYO LEGACY」

「解禁！米政府 UFO 機密調査ファイル」

### ■ご意見

「東京レガシー」について

- ・未公開のフィルムを使って、戦後の日本史の状況と復興を、要領よくまとめています。アメリカの視点での制作なので、複雑なニュアンスは伝わってこないが、単純明快な切り口がむしろ興味深く感じられた。  
小生の子供のころの貴重な映像が多く、歴史的価値のある作品と思う。文句なしにいい番組です。90分ではもったいない。  
駆け足の感さえあって、もったいないです。アメリカにある、終戦直後の東京のカラー映像をもっと探してほしい。
- ・東京の戦後の歩みがコンパクトにまとめられており、わかりやすかったと思います。特に戦後すぐの部分、貴重な映像資料が見られました。  
「海外の人は東京をこうみているのか！」との驚きが特に無かったのは、日本人が「外国から自分達がどう見られているか」を気にしすぎているからではないか。
- ・東京の、日本の戦後 75 年を、貴重な映像を上手く織り交ぜて、確かな視点で、多角的に描いており、大変面白く見た。敗戦により焼け野原になった東京、進駐軍と子供たち、マッカーサーと昭和天皇、60 年安保闘争、高度成長、東京五輪、日中国交回復、バブル崩壊、阪神大震災・地下鉄サリン事件、金融危機と日本型雇用の終焉、東日本大震災・原発事故・・・何という激動の時代であったのかと改めて考えさせられた。

力道山やアトム、ウルトラマン、栄養ドリンク、かわいい文化などにもスポットを当てたことも奥行を深くしている。

吉見俊也氏、米国臨時大使等のコメントも良く効いており、良い人選であったように思う。日本語字幕であり、海外向けの番組なのだろうが、日本人にとっても十分見応えがある。終戦から五輪あたりまでは、多くの人が記憶の彼方にあるだろうが、忘れてはならない歴史であり、特に若い人たちに見てもらいたい。

・戦後 75 年を経た「東京」の現代小史。メイン対象は海外だろうが、小学校高学年～大学生に向けた入門副読資料にも最適。

主要トピックを手際よく整理。ただ、長さは 2～3 回分割のほうが適度。時折「東京」と「日本」混在同一視の感（苦難の歴史経験、悲劇を乗り越える力、精神的に鍛えられている、秩序、七転び八起き等）。

よほどの日本通以外や若年層には不明な場所や時期の映像もあり、生活場面映像でも正確なクレジットがほしい。

・海外の人がざっと日本と東京の歴史をふりかえるのにはよくできている。シンクロナイゼーションを得意とする習性をテーマにもっと一貫したストーリーも可能だったかも。

・東京の 75 年の歴史を政治、経済、社会、文化など多様な視点から分かりやすく解き明かそうという渾身の番組。力道山の息子のインタビューという意外性に驚かされた。

次々と紹介される過去の映像と識者の分析に導かれて楽しむことができた。識者による新しい視点の提示は魅力的だったが新しい事実の発見はなかったので 120 分は少し長すぎると感じた。

・日本の東京の戦後史を良く知らない若者向けに簡単に紹介したかのような作品。もう少しテーマ毎に分けてその背景にある真実を掘り下げた方が……。解説者よりも学者よりも体験・経験者をメインに人選すべき

## 「解禁！米政府 UFO 機密調査ファイル」について

・ UFO の存在を信じる信じないに関わらず誰もが興味ある作品。

しかも、米軍が秘密裏に調査してきた事実が講評された今日、非常にタイムリーな作品！第一話は少々状況の説明が多過ぎてもっと深く知りたい、見たい部分の解明には希薄であるが、全話への期待感も膨らみ好感！ヒストリーチャンネルらしい作品！！

・ 未知との遭遇への受け止め方や対応は様々。この番組の UFO は国家的脅威・国防・国家の安全・中国やロシアとの競争の対象。

本気で取り組んだ<記録>の公表であり、体験者の証言集である。遭遇状況、動き、日時、場所など具体的で一応の説得力はある。OB が多いせいか、証言者が過去の肩書きや顔出し、ナマの声であることに驚いたし、熱意も感じた。主要証言者の一人が女性だったのは意外で新鮮でもあった。

・ 米軍パイロットの生々しい白昼の UFO 目撃証言が衝動的だった。

米国政府や軍当局が真相究明に消極的だったことは知られているが、究明に立ち上がった人々の動きを通して UFO の謎の解明が始まっていることを知ったのは貴重だった。

・ ニューヨーク・タイムズの報道で、UFO に対する世の関心は、一段高まったように思われ、その意味でヒストリーチャンネルの本番組は時宜を得たもので、興味深く見た。最も重要なのは「ニミッツケース」であるとして、2004 年 11 月、海軍パイロット 4 人が目撃し、写真撮影にも成功した事件を中心に設定。パイロット 2 人のインタビュー、専門家の分析・議論を紹介しているが、なるほどと思わせる説得力があり、惹き付けられた。ただ、目撃情報はヤマのようにあり、米政府も本格調査しているほどの問題であるから、無関心でいられないことは確かだが、まだそこまで深刻な脅威とは受け取られていないことも事実である。専門家の一人、海兵隊退役中佐のクリストファー・クックは「人類が経験したことのないような飛び方をする物体が存在するとしたら、いずれ何らかの問題が起きる恐れがある」と語っているが、まだ「問題」（実害）が起きていないためだろう。現実には起きていて我々が気づかないだけかも知れないが、UFO の「目的」は謎のままである。全 6 話でどこまで迫れるか、注目したい。

・ これまでの数多くの UFO 番組が作られたが、不鮮明な映像と、確たる裏付けのない目撃証言だけで、靴の上から足を搔くようなものばかり。この作品も例外ではない。出演者が大まじめなだけに、かえって白けるだけだ。宇宙人とのインタビューでも実現しないかぎり、この手の作品を制作してもなんの意味もないような気がします。

・アメリカで UFO が身近に迫る存在としてとらえられていることを知り、興味深く拝見。軍事用語など、普段親しんでいない単語が字幕として多く並んだので、慣れるまで追うのが少し大変でした。

UFO 情報の信憑性を高めるための作りこみがやや過剰に感じられましたが、次回以降に期待します。

・アメリカはつねに「何か」が侵略してくるかもしれないと不安を抱く。

### その他の意見、課題など

「東京レガシー」のような日本オリジナルの番組が増えることを期待するとともに、世界各国で日本オリジナル番組を見る人が増えることを期待する。そのためにも興味深いテーマの発掘に取り組んで欲しい。

今回はともに「現代史」というべきものであったが、分野も手法もタイプも、さらに印象も全く違う。

番組編成は常に課題だろうが、「歴史」はあらゆるものが対象であり、どのようにも捉えることができ、際限なく狭義にも広義にも扱うことができる。

時には色合いのはっきりした核のある確たるチャンネルにもなると同時に、時には「歴史」を唯一のシンプルなキーワードに、多種多様な様々な作品が緩やかに共存・併存して提供されていくこともこのチャンネルの個性である気がする。

未来のために、現代史の証言となるような記録番組を、もっと作るべきです。

今回の、東京の歩みを記録するような番組です。過去に作られたドキュメンタリー番組を紹介するのも、その一つになるでしょう。

日本では「モーゼの十戒」的な作品はなかなか広い視聴者をえられないかもしれない。

ヒストリーというとき、西欧をこえた非西欧を包含する「地球ヒストリー」の視点がもう少しつよく出せるといいと思います。